

# 環境防災学講座 平成 24 年度修了生からのメッセージ

黄 麗, 一般学生 (留学生)

現所属: 応用地質 (株) 東京支社ジオテクニカルセンター

## 1. 環境防災学講座での修士研究について

私は 2008 年の中国の汶川大地震と 2011 年の東日本大震災の二つの地震を経験した。そして、地震発生後多くの被災者に対して、避難生活を確保する避難所について深い関心を持つようになった。中国では、汶川大地震をきっかけに、地震などを含めた自然災害への防災対策が強化されてきている。そこで、中国の避難所整備に関する課題を明らかにするため、中国と日本の大規模地震発生後の避難の実態を調査し比較した。

## 2. 環境防災学プログラムについて

本プログラムでは土砂災害対策を中心に、基本知識、技術、施設、政策・法令、計画、管理、環境、心理、実践などさまざまな視点から見た砂防を、この分野の各立場で活躍しているコンサルタント、行政、研究者の方々からお話を聞くことができた。これは非常に貴重な機会であり、幅広い考え方を習得できたと思う。

本プログラムでは土砂災害に対する実際の解決能力求めているため、非常に豊富な現場調査・実践実習の機会があり、災害現場や知識・理論などを実際に目で確認し、理解を深めることができた。特に実践実習は、現在勤務している会社で課題を見つけ、その解決方法を考えるための貴重な経験になったと思う。

## 3. 現在、会社で役に立ったと実感できること

近年ハード対策と並行しているソフト対策のうち、レッドゾーン、イエローゾーンなど危険区域の設定を現在業務でやっている。授業で教えてもらったお蔭で、実際の仕事で理解が深まり、また全体の災害対策との位置づけが把握でき、さらに仕事の面白さが感じられる。

講座で様々な災害現場や現地調査に連れて行って頂き、多くのことを学んだおかげで、仕事に関わる現場作業にも新人なりの不慣れがあまり無く、理解しやすくなったと思う。

授業の講師の方々とも仕事や学会など色んな機会でお会いし、この分野についての帰属感が強くなり、仕事ももっと楽しくできると感じる。

## 4. その他の感想

講座の設立は社会人再教育を目的としているため、多分野の人が集まり、お互いにいろんなこと教えてもらえる。また雰囲気としては自由で、温かい講座だと感じる。卒業してからも、毎年同窓会や忘年会が開かれ、いつも困ることあればすぐ助けてくれる先輩や先生がいらして、心強いと思う。

## 5. 後輩に期待すること

自分は文系だったので、技術的なことについて理解が今一であったと思うが、地質分野や工学分野であれば、ぜひこの講座にて防災に関する技術や考え方を勉強してほしい。

また、これは一般学生に対する話であるが、うちの講座には社会人学生が多いため、社会人としての勤勉さ、真面目さを学べ、励まされると思う。一般学生も社会人に負けずに一生懸命勉強して、社会にでる前に自分をしっかり磨いてほしい。